

正しい?間違ってる? 吃音の常識をアップデート!

緊張しやすいわけでは
ありません

よくある誤解 1

緊張するからどもる?

いいえ。吃音のある人がどもるのは、緊張とは関係ありません。安心できる場の方が吃音が出やすい人もいます。
「吃音が出ると迷惑をかけてしまうのではないか」「笑われるのではないか」などの不安やプレッシャーの結果、緊張してしまうことはあります。

努力不足ではありません

よくある誤解 2

練習や訓練で吃音は治る?

吃音の確実な治療法は確立されていません。
吃音のある人は事前に人一倍練習して臨んでも、ずっと言葉が出ないことが多々あります。
そのため、吃音を受け入れてもらえたり、マニュアルなど決まった言葉をほかの言葉に置き換えたりすることができれば、安心して仕事に取り組みやすくなります。

そうとも
かぎりません

よくある誤解 3

吃音が目立たない人は困っていない?

言いにくい言葉を別の言葉に置き換えて話したり、話すことを避けたりしていれば吃音は目立ちません。
一見してどもっていないなくても吃音が出ないように、言葉の置き換えに頭をフル回転させ、多大なエネルギーを費やしていることもあります。

おしゃべりが
好きな人もいます

よくある誤解 4

吃音のある人は、話すことが少ない仕事に就きたいと思っている?

吃音があっても、人と接し話す仕事に就きたいと考えている人はいます。
吃音によってその人の適性や能力の評価にフィルターがかかってしまうと、せっかくの人材を活用できなくなってしまうかねません。

声を出しやすくする
工夫です

よくある誤解 5

「えっと」や「あの」は話し方のクセ?

吃音のある人にとっては単にクセとは言いきれません。話し始めの言葉を出しやすくする工夫として、「えっと」や「あの」などの出しやすい言葉をはさみながら話すことがあります。

吃音のある人の理解支援に おすすめの本、参考資料

- 『吃音の合理的配慮』 菊池良和著(学苑社)
- 『きつおんガール』 小乃おの著(合同出版)
- 『成人吃音とともに』(DVD付) 北川敬一著(学苑社)

厚生労働省合理的配慮事例集

監修/山崎和子(言語聴覚士)
制作/広島市言語・難聴児育成会
きつおん親子カフェ

発行/全国言友会連絡協議会 社会的支援推進委員会
2024年4月(初版)

このリーフレットの
ダウンロードはこちらから



企業の力に変えていく

吃音のある人が持てる力を発揮して働くために

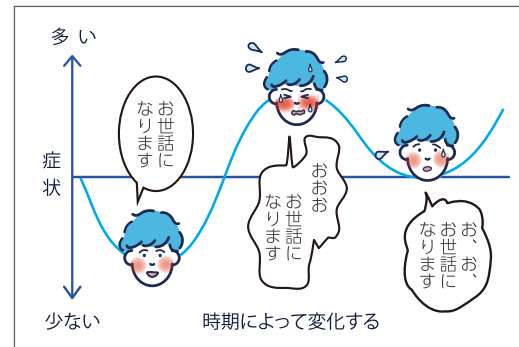
言いたいことが頭に浮かんでいるのに、その言葉がスムーズに出せない症状を吃音(きつおん)と言います。(一般的に、「どもる」とも言います)。
本リーフレットは、吃音のある人がその能力を十分に発揮し、円滑に業務を遂行するために事業者ができることについて解説したものです。

吃音はこんな症状

<p>言葉の一部をくりかえす</p> <p>連発</p>	<p>言葉の一部をひきのばす</p> <p>伸発</p>	<p>つまって声が出づらい</p> <p>難発</p>
------------------------------	------------------------------	-----------------------------

随伴症状

言葉を出そうと力んだり、体の一部(顔や手、足など)の動きが伴ったりすることがあります。



- 吃音が多く出る時期、少ない時期があり、症状の出方は変化します。
- 話す場面によっても変化し、ふだん流暢に話せていても電話や発表の時にはどもるということもあります。
- 出しやすい音と出しにくい音があり、吃音のある人によって異なります。
- 自分でも吃音がいつ出るのか、はっきりと予測することができません。

💡 吃音の豆知識

- どれくらいの割合?** ----- 吃音のある人は100人に1人とされています。(国内では約120万人)
- 原因は?** ----- はっきりと解明されていませんが、生まれ持った吃音になりやすい体質的な素因が大きく関与しているとされています。本人の気が弱いからなるのでは、育てられ方に問題があったからでもありません。
- 治療法は?** ----- 確実な治療法は確立されていません。
- 吃音のある著名人は?** ----- 江崎玲於奈(ノーベル物理学賞)、大江健三郎(ノーベル文学賞) 小倉智昭(アナウンサー)、重松清(作家) ジョー・バイデン(アメリカ大統領)、田中角栄(元首相) ハメス・ロドリゲス(サッカー選手)、細田守(アニメーション監督) など

採用試験で、吃音のある人から「吃音がある」ことの開示があった場合、どのような配慮(合理的配慮)ができるでしょうか?

面接における配慮の例

- 吃音が正当な評価の妨げとならないよう、面接担当者へ吃音の周知を行った。
- 発話できるまで待つ話を聞くようにし、それに伴い面接時間の延長をした。
- 発話に代わる他の手段(筆談、チャットなど)を使用することを認めた。

吃音のある人が入職後には、どのような配慮が必要でしょうか?

1 相談・確認

吃音のある人(以下、本人)から相談を受けたら、どんな場面でどんな困りごとがあるのか、どんな配慮を必要としているのかを整理し、理解しましょう。

point! “これまでに出会った吃音のある人”をイメージして配慮を考えるのではなく、目の前にいる本人の話をしっかりと聞くことが大切です。

「私の吃音説明書」ダウンロードはこちらから



2 話し合い

困りごとに対し、どの範囲でどんな工夫や配慮が、職場において可能なかを本人と一緒に話し合しましょう。

3 実施

どんな配慮を行うかを決め、本人に十分に確認したうえで実施しましょう。
職場の方々に、吃音について知ってもらう場合

- この吃音啓発リーフレットをどうぞご活用ください。
- 吃音であることをどの範囲に開示するのかについても、事前に本人と確認してください。

4 見直し・改善

時々声をかけて様子を聞くなど、本人が困りごとの相談をしやすい職場環境を作っていきます。
必要に応じて上記1~3の流れで配慮の見直しを行いましょう。

吃音のある人の相談に乗る担当部署、担当者を実体的に選任している事例があります。担当者を決めることにより、適時困りごとを認識し、解決に向けて動きやすくなります。

担当者の例：社長等の管理者、人事担当者、直接の上司、新人担当のチューターなど。

吃音のある人の職場での配慮事例

困りごとの相談



固有名詞やあいさつ言葉(お世話になります、ありがとうございます)など、他の言葉に置き換えができない言葉を使うときに苦労します。

定型文 ~~XXXX~~ → 言葉を変更 OK

電話で苦労します。



etc...

話すとき苦しそうに見えるため、話しかけにくいと思われてしまうことがあり、仕事上の打合せや、何気ない雑談などに入りにくくなってしまいます。



プレゼンなど、時間的制限がある場で苦労することがあります。

タイムリミット



サポートアイテムなど

配慮事例



- どんな場面で配慮が必要かを確認し、合理的配慮を行った。(左ページ参照)
- マニュアルで決まっている言葉を、同じ意味の言いやすい言葉に置き換えて言うことを認めた。

- 可能な範囲で他の手段(メール、FAXなど)を使うことを認めた。
- 電話は他の職員が対応した。
- 段階的に電話に慣れてもらうようにした。

- 仕事上の会話でも雑談でも、気楽に話しかけるように職員に周知した。
- 難発で声が出ないときは、少し待つようにした。
- 聞きづらい時は、遠慮なく聞き返すようにした。

- 資料の準備を十分に行うようにしてもらい、録音音声の使用などを認めた。
- 声が出にくいときは、ほかの職員が代読した。

吃音の理解があると働きやすく、力を発揮しやすいです。



「吃音があることを知ってほしい」
「時間がかかっても、話し終わるまでさりげなく待ってほしい」
「吃音が出て驚いたり笑ったりせず、聞いてほしい」
という配慮だけで十分という方も多いです。